

第4回 八幡市総合計画審議会 議事要旨

■日 時：平成29年11月24日（金） 10:00～12:00

■場 所：文化センター 4階 小ホール

■出席者

【委員】

家村 咲栄 委員、石川 純 委員、泉谷 透 委員、井上 好光 委員、岡山 敏哉 委員、尾形 良治 委員、沖田 悟傳 委員、加藤 博史 委員、川原 絵美 委員、河原崎 保 委員、木下 重喜 委員、小林 敦 委員、高田 稔幸 委員、田中 恆清 委員、田邊 昭 委員、辻村 修太郎 委員、中川 一 委員、橋本 行史 委員、藤田 美代子 委員、古市 久子 委員、政 博之 委員、松下 順英 委員、松本 伍男 委員、溝口 知男 委員、八木 英夫 委員、吉田 元男 委員

【市役所】

丹下 均 副市長 以下部長級職員

【事務局】

足立 政策推進部長、曾我 政策推進部次長兼政策推進課長、堀川 政策推進課係長、岡田 政策推進課係長

■欠席者

岩成 功 委員、岡本 圭司 委員（代理出席：京都府山城広域振興局企画総務部長 小谷 充茂 氏）、奥村 正明 委員、谷口 栄一 委員、豊田 勝代 委員、東出 成記 委員（代理出席：国土交通省近畿地方整備局 淀川河川事務所 副所長 白波瀬 卓哉 氏）

■次第

1. 開会
2. 協議・報告事項
 - (1) 基本構想（中間案）について（資料1）
 - (2) 基本計画（中間案）について（資料2～4）

■配布資料

- <資料1> 第5次八幡市総合計画（序論・基本構想）<中間案（未定稿）>
- <資料2> 第5次八幡市総合計画基本計画（基本計画の施策・主な取組）
<中間案（未定稿）>
- <資料3> 第5次八幡市総合計画（基本計画の指標一覧）<中間案（未定稿）>
- <資料4> 第5次八幡市総合計画 基本計画（全体版）<中間案（未定稿）>

■傍聴者

2名

1. 開会

丹下副市長：本日はご多忙の中、第4回審議会に出席いただき、感謝申し上げます。

前は「基本構想」の柱となる「将来都市像」や「基本方針」の考え方について、ご意見を賜った。また、部会で議論された「6つの基本目標」の考え方についても、総括的にご意見をいただいた。

本日は、これらを集約し「中間案」としてまとめていきたいと考えている。特に、「基本構想」では「まちづくりの将来像」と「都市空間形成の方針」について、「基本計画」では、庁内で一定精査した「施策や指標など」について、それぞれ案をご提示するので、ご議論を賜りたい。

生活都市である本市が、人口減少と厳しい財政状況の中にあっても、将来にわたって地域の活力を維持していきたいと考えるとき、次の世代に、何を、どのように引き継いでいくのかという視点をもって、将来都市像をお示ししていく必要があると思っている。

委員の皆様には、すでに様々な観点からのご意見をいただいているが、本日もまちづくりの大きな方向性についてご意見くださるよう、重ねてお願い申し上げて、開会のご挨拶とさせていただきます。

会長：委員の皆様にはお忙しい中お集まりいただき、感謝申し上げます。これまで3回審議会を開催してきた。今後10年間の八幡市のまちづくりを考える上で、総合計画の審議会は非常に重要な役割を担っている。本日の第4回は、副市長のご挨拶にもあったように、中間案としてのとりまとめをできる限り行っていくという目的がある。中間案は今後、議会に報告し、パブリックコメントを行って市民の方々のご意見をいただくという予定になっていると思う。したがって本日は、最終案というわけではないが、中間案としてとりまとめていきたい。委員の皆様には活発にご議論いただいて、とりまとめにご協力をお願いしたい。前回の審議会では2つの審議会部会での議論の内容を共有した。また、基本構想の将来都市像についてどのように考えるかの議論もなされた。その中で、都市空間形成についても一定の方向性を示す必要があるとの意見も出た。本日はそれに関連して、皆様のご意見をお聞かせいただきたい。さらに、基本計画の内容についても、さらなるご審議をお願いし新たなご意見をいただきたい。よろしくごお願い申し上げます。

2. 協議・報告事項

会長：次第に基づき、議事に入りたい。まず、基本構想の中間案について、事務局から説明をお願いしたい。

事務局 :
(資料1 説明)

会長 : 第5次八幡市総合計画 中間案の P.17 (全体のビジョンの進め方)、P.27 (都市空間の形成方針) についての説明だった。それをわかりやすく A3 サイズ1枚でまとめた資料(資料4)の左上が前半の説明であり、左下にまとめられたものが後半の説明であった。これらについて、ご意見やご質問をいただきたい。

今回、「将来都市像」の中間とりまとめの段階での案として「みんなで創って好きになる 健やかで心豊かに暮らせるまち ~住んでよし、訪れてよし Smart Wellness City, Smart Welcoming City Yawata~」というフレーズが示されている。これについてもご意見いただければと思う。

委員 : 都市空間形成方針について、少し気になる点がある。私自身が男山地域でいろいろとまちづくり等の活動をしているが、関西大学在籍時に男山地域再生基本計画の策定にも関わらせていただいた。その際に4つの駅勢圏という話を当時の都市計画課の課長が話されていた。この図には樟葉駅の記述がない。私自身男山に暮らしており、樟葉駅の存在は八幡市の方にとって重要な位置づけだと感じている。今後10年間のまちづくりを考えると、八幡市の約3分の1の方が住まれている男山地域にとって重要な樟葉駅について語られていないのが気になる。

会長 : 部会の審議会でも意見が出たが、八幡の外部環境の変化に対応しながらまちづくりをする必要があるという中でのご意見。本日の都市空間形成は大枠を示す中で、個別の問題については、盛り込まれていくと思う。

岡山副会長 : 先程のご意見の都市空間形成の考え方に関してコメントすると、「(1)本市の特性を踏まえた「コンパクトシティ」の実現に向けたまちづくり」の内容の1つめの「・鉄道駅周辺・・・」は市の誘導区域に関係するものとしてこれで良いと思うが、2つめの「・現状で・・・」の中にある「定住促進対策や住み替え促進対策で多世代が交流できる仕組みづくり」については、「(3)公共施設の再編等による持続可能なまちづくり」に含まれる内容だと思う。その辺りの文言の修正や入れ替えについては検討が必要。

(3)は「公共施設の再編等による持続可能なまちづくり」ということになっているが、公共施設の再編に限らず、持続可能なまちづくりというのは、URの男山団地等の公的住宅の長寿命化も密接に関わるので、住生活基本法に関わる記述を増やしていただければと思う。また、対象を道路・橋梁に限らずもう少し増やしてほしい。

さらに、「(4)災害に強く安全・安心に暮らせるまちづくり」は基本目標の1つになっているので、避難所や防災拠点や地区防災計画等も、もう少し記述内

容を充実させて方向性を示していただきたい。

会長 : 樟葉駅との連携や交流、利用等の内容について入れるとすると、どこになるか。

岡山副会長 : 樟葉駅は市外なので、都市空間形成の方針の中で言及するのはどうかなと思うが、将来土地利用構想の「連携軸」のところの記載があっさりしすぎているので、樟葉駅や城陽市との関連を「東西連携軸」の中で具体的に書いていただければ良いのではないか。

委員 : 男山団地については、生涯学習センター等八幡市の中で最も人口が多い地域。西山地域が橋本地区に入っているが、違うのではないかという声もある。都市機能の考え方がはっきりしない部分もあるが、住民にとっての都市機能であれば、男山団地周辺を一体として考える必要があるのではないか。樟葉駅は八幡市民にとって重要な交通の拠点。交通の便からすると、男山の生活基盤がほとんど樟葉駅に寄っているので、難しいと思うが、そこの連絡については考える必要はあると思う。

会長 : 本日議論いただいているのは総合計画であり、個別計画のように細かく書くことはできないが、一定の方針や考え方をできるだけ反映させて、個別計画との整合性をはかっていく必要があると思う。将来都市像のフレーズについてはいかがか。

委員 : 将来都市像のフレーズは事務局で案を作られたのか。非常に良いと思う。「みんなで創って好きになる」というのが非常にやわらかく、市民の皆さんで将来を作っていくという意味で、素晴らしいフレーズを考えられたと思う。将来都市像の説明についても良くまとまっている。都市空間の形成方針については、最初に「コンパクトシティ」とあるが、立地適正化計画で示される法的な用語とは異なっているのではないか。言葉は整理されている方が良い。

「みんなで創って好きになる」ということが将来都市像のフレーズにあるので、「(2) 産業振興や多様な地域資源を活かした活力あるまちづくり」の3つめの歴史文化資源や自然環境や景観について、もう少し書いた方が良くなるのではないか。

会長 : フレーズについては高く評価されたのと、都市空間形成の言葉が法律に使われる言葉と若干違うのではないかというご指摘であった。それは意図して使われているのかとも思うが、検討していただきたい。

委員 : 順番の話になるが、最初に「コンパクトシティ」や「新名神の都市基盤整備」の言葉がくると、「みんなで創って」というフレーズと合わないのではないか。市民の方が参画しやすいようなもの、中でも、歴史文化について少し最初に入れた方が、「みんなで創って好きになる」というコンセプトに合うのではないかと思う。

加藤副会長：細かいことも含めて4点触れたい。「序論」で「Ⅲ. 社会経済環境の動向」の中に「2. 高齢化社会の進行と・・・」が出てくるが、「高齢化社会」というと国連のエイジング・ソサエティの定義と関連してくるので、「少子・高齢化社会」とした方が良いのではないか。少子化と高齢化はセットで大きな問題になっている。

「主要課題2」で少子化が進む中での子どもの未来の話になるが、部会で婚活の意見が随分出ていた。出会いがなくなってきており、婚活も具体的な支援に入れておいたら良いのではないか。

「みんなで創って」というフレーズは非常に重要。一方、英語の”Smart Wellness City, Smart Welcoming City”の言葉が長い。たとえば”Smart Wellness & Welcoming City”のように中をカットしたらどうか。

最後、6つの柱が議論で積み上げられたが、何が基盤になり、何が方向になるのか6つの柱の位置づけはどうか。安全安心と健幸は基盤であり目標になる。幹になるのは共生。活力と未来と観幸は大きく広がっていく枝葉や果実になるのではないか。6つの基本目標の柱について、少し工夫できないか。6つの基本目標の根の基盤になるのは市民参画・市民協働ではないか。

基本目標6の中にサステイナブルについて書かれているが、「エコロジカル」の要素も入れることはできないか。

会長：いろいろなご指摘をいただいた。英語の文言については、他で使われているものを用いたりしてこの言葉にまとめられたかと思うが、ご検討願う。

委員：「序論」の「Ⅲ. 社会経済環境の動向」で「8. オールジャパンで推進する日本文化の発信とレガシーの創出」の中にお茶の京都について記載されているように、お茶の取組は山城地域を中心に継続的に進められ、まちの資源になるということだと思う。主要課題の部分にも「茶文化」が記載されている。松花堂庭園は八幡市の財産。他の庭園は寺社の持ち物。松花堂はお茶とも関係が深いので松花堂昭乗を残し、もう少し力を入れていただきたい。特に茶文化に関しては、観光会で茶道会等盛んに行われているので、もっと重要な位置づけにして発展させていく方策を作っていただきたい。

会長：細かい話は載せられないが、「茶文化薫るまち」として総合戦略で出したビジョンを総合計画でも引き取って推進していただきたいというご意見であった。

委員：将来都市像の18ページの図はそれぞれの基本目標のキーワードが結びついて、わかりやすく示されていてとても良い。

「みんなで創る」は非常に重要なキーワードだと思うので、この辺はもう少し目立つ見栄えにしてほしい。みんなで創るためにはもう少し市民を巻き込んで、として行政が本気で「みんなで創ろう」という姿勢があることを、パブリックコメントで意見を聞くだけではなく、考え方をシンポジウム等でもっと発信す

るなどプロモーションして示してはどうか。年度末まであまり時間は残されていないが。

会長 : 将来都市像については評価いただいた。「みんなで創る」のは基本なので、もう少し強調できないかということと、中間案をパブリックコメントで市民の方々にお示しするだけではなく、シンポジウムを開催してはどうかというご意見であった。予算や議会の日程のこともあるが、事務局でご意見を引き取って検討いただきたい。

委員 : 「みんなで創る」というのが将来都市像の冒頭にきているが、第4次総合計画でも「協働・連帯」という形で書かれていた。今回も「行政や地域団体など様々な組織や人と連携しながら」と説明されている。しかし、「スムーズに協働・連携できるシステムの確立」、「システムを市がつくっていくことにより、安心・安全、健幸、観幸においても、誰もが協働で参画できるようにする」というくらい積極的に書かないとインパクトがないのではないか。

会長 : 「みんなで創る」「共生」という言葉だけでなく、「システムをつくる」という内容や文言をどこかに盛り込めないかというご意見であった。

委員 : 書かれていることには全面的に賛成だが、「みんなで創って」というのがとても良いと思うのは、人が生きる原点がそこにあると思っているからである。「自分が考える・参加する」ということは、市民一人ひとりが健全に、かつ豊かに暮らすことにつながる。「一人ひとりが将来を豊かに築いていく根本にある」ということが書かれていても良いのではないか。どんなに良い環境にいても、自分で考えないと生きる力がつかない。苦しい環境でも、自分が頼りにされているということが生きていくうえでとても重要。

会長 : 時間の関係で、ここで休憩を取らせていただきたい。引き続き、事務局から基本計画の内容について説明いただきたいと思う。そのときに合わせて基本構想についてもご意見をお願いしたい。

(休憩)

会長 : 再開する。まちづくりの将来像および都市空間形成の方針についてご意見をいただいた。まだ十分場ご意見をいただいている委員の方もいらっしゃるかもしれない。後の審議の中でご意見をいただきたい。

続いて、基本計画の中間案について事務局から説明をお願いしたい。

事務局 :

(資料2～4 説明)

- 会長 : 基本構想は議会の議決事項となっている。基本計画は市の行政施策の指針になるものであり、少し細かい内容になっている。内容については、前回の審議会の意見を踏まえて修正している。施策をたてるだけではなく、チェックする指標についても説明があった。これについてご意見いただきたい。
- 委員 : 基本計画の指標一覧の中で、第5章第1節に「商工会事業による経営改善等の助成利用件数」という項目がある。商工会は独立した組織なので、それを八幡市の総合計画の指標にするというのは違和感があるのだがどうか。
- 会長 : 基本計画の中で商工会事業を支援するとあるが、指標として、チェック項目になることについて、検討していただくということによろしいか。
- 委員 : 助成を受けている会は商工会だけではないので、商工会だけ数値目標を課せられるのはおかしいと思う。
- 会長 : 事務局で検討していただく。従来のように一方向ではなく、今後の行政のやり方を改める流れの中で、それぞれの事業効果を行政自身が評価する内容だと思う。他団体の事業をどうこうという内容とは思わないが、これについてももう一度検討いただきたい。
- 委員 : 資料3 第5章第1節「担い手農家の農地利用集積面積」は現状値よりも増える余地があるのか。
- 担当部 : 担い手農家の経営改善につなげたり、耕作放棄地になるのを未然に防止したりするために、担い手農家に農地を集積していくという取組をしている。
- 委員 : 元農家の土地利用をしていくということか。もう農家が続けられないという方の土地を若い人が担っていくという理解で良いか。
- 担当部 : そうである。
- 加藤副会長 : 第2章の指標に「いじめの件数」を入れることはできないか、検討をお願いしたい。
- 子どもへの支援の部分で、子育てはひとつの文化であって、地域のいろいろなつながりの中で子どもは育ってきたが、今はコミュニティが新しい段階に入ってきており、「親業」の学習会や新米のお父さんお母さんとベテランのお父さんお母さんのグループワーク等といったことも入れていただけたらと思う。
- 先ほどの議論に戻るが、「スマートウェルネス」の「スマート」には「生意気」とか「ずる賢い」という意味もある。子育て等も、親子や地域でいろいろな苦しみや悲しみを協力で乗り越えていくことによってきずなが深まり豊かになっていくものだが、「スマート」にはいろんな葛藤をスルーするイメージがある。再考していただけたらと思う。
- 行政のガバナンスについての記載が6章にあることには違和感がある。計画の推進体制ということであるので、行政経営については6章からは独立させるべきではないか。ご検討いただきたい。

- 会長 : 意見としていただいたので、ご検討いただきたい。将来都市像については、皆様から非常に良い、というご意見をいただいた。下の英語の部分の「スマート」については、どこかで使われている言葉であるということだったと思うが、どこでどのように使われているのか。
- 事務局 : 「スマートウェルネスシティ」は「健幸のまち」ということで、全国の自治体の中でいろいろなところで使われている言葉である。ソフト・ハード両面において、「そのまちに住むことによって健康になっていけるまちづくり」を進めていこうという取組である。この場合の「スマート」というのは、「賢明」で「快適」に過ごせるまちづくりを進めていこう、といった意味で使われている。本市も「スマートウェルネスシティ」の会議に参加している。基本構想の中の図にあるように、「健幸」と「観幸」を合わせて、スマートウェルネスシティにかけながら、住んでよし訪れるもよし、という意味を込めた言葉にしている。
- 会長 : 全国ベースの会議に参加されているところから使われているのだと思うが、10年間継続するフレーズなので、日本語の表現は温かい感じなのに、下の表現はちょっと冷たく、日本語と英語の表現は合っているのか、というご指摘であった。十分お考えになったうえでのフレーズだとは思いますが、ご検討願う。
- 委員 : フレーズの「みんなで創って」は良いが、「好きになる」というと、今は好きではないのか、と少しひっかかるように思う。「みんなで創って支えあう」とか「輝く」などはどうか。また、「City」をひとつ取り除いてはどうか。指標の中に「ボランティア活動への参加率」を入れていただけないか。目標はもう少し高めになれば良い。細かい話で恐縮だが、松花堂の茶の関連で第4章第1節の新・閑雲軒についてはどういうことか。グリーンカーテンについて景観で書かれているが、本来は省エネを目標としたものであるので、少し違うのではないか。
- 会長 : ご検討いただきたい。岡山先生とお話ししていて、「スマートシティ」という言葉も最近よく使われるようになってきていることから、これで良いかも、というご判断をいただいたが、委員の皆様、「スマート」の使い方はどうか、ご検討をお願いしたい。
- 委員 : 第4章に指標として「観光客の人数」と「観光消費額」がある。平成34年で現状より観光客を約20万人、消費額を約2,000万円増やすということだが、平成34年から平成39年までは観光客は6,000人しか増えないにも関わらず、消費額が1,000万円増えるとなっており、目標設定に違和感がある。
- 事務局 : ご意見を踏まえて、整理させていただきたい。
- 委員 : 第2章の学校教育について、「先生の教育指導・育成」といった文言を盛り込んでいただきたい。校長先生や教頭先生によって学校が変わっていくのを目にしたことがあるので。

会長 : 市の総合計画に入れられる性質のものかどうか分からないが、ご意見として承りたい。

基本計画の中に松花堂に関する維持・管理について、私も気になっていたが、他の委員の方からも指摘があった。記述があっさりしているが、「みんなで好きになる」対象について、触れるだけでなく見える配慮をされてはどうか。一案として自然と歴史・文化でご指摘をいただいたかと思う。第4章 自然と歴史と文化が織りなす「観幸のまち やわた」を、みんながつくって好きになろう、という目標のひとつだとすると、最後の歴史景観の記述があっさりしすぎているのが気になる。「市外各地に残さる」といった広がりを入れていただきたい。「保全を進める」についても、「一層の保全を進める」「さらなる保全を進める」等含めてご検討いただきたい。

短い時間ではあったが、基本構想、基本計画についてご審議をいただいた。様々なご意見が出たが、その場でご了解いただいた意見と、事務局で持ち帰り再検討いただく意見とがあったと思う。それでは、意見を踏まえて事務局に整理いただき、審議会としては中間案については、本日お示しした大枠を承認とさせていただきます。事務局でまとめていただいたうえで細かい案件等あれば、対応について会長の私に一任いただいても良いか。

(異議なし)

会長 : ではひとまず事務局に整理・検討いただきたい。

事務局 : 様々なご意見をいただいたが、追加のご意見があればご記入いただき事務局までお寄せ頂きたい。本日のご意見・追加のご意見をもとに事務局で整理し、12月に中間案として整理し議会報告のうえ、パブリックコメントを1月中旬まで行う予定としている。次回はパブリックコメント等の意見を踏まえ、1月下旬以降に答申の審議をいただきたいと思っている。別途、日程を調整させていただく。

今日の議論の中で、「もっとたくさんの市民の方にご意見を」というお声があった。ひとつは、今後、成人式実行委員会の新成人の方と市長が中間案・将来都市像について意見交換する機会を設けようと企画している。新成人の方のご意見も含め、市民の皆様のご意見を踏まえ、次回ご提示していきたいと考えている。

会長 : これで、第4回総合計画審議会を閉会する。本日はありがとうございました。

以上

※発言者を示す「委員」には、代理出席者を含む。